

令和3年3月11日、春日和の晴天の中、令和2年度第74回卒業証書授与式を挙行了しました。コロナ禍ということもあり、参加者は卒業生（202

名）、と保護者（321名）、特別来賓2名（PTA会長、学校運営協議会会長）教職員（48名）、在校生代表生徒1名に制限し、昨年度に引き続き、在校生と地域の来賓の方々の出席については見合わせることにしました。出席者全員がマスクを着用し、検温も行い、会場も密にならないように座席の間隔を約1mとし、換気のために窓をあちこちら開け、感染対策に十分配慮して実施しました。さらに、式歌については、国歌はCD、卒業生の歌（「正解」）と校歌（1番・4番）はマスク着用のまま歌い、演台にはパーテーションも設置して感染リスクを下げる工夫をしました。以下、式辞・祝辞・答辞・送辞など、卒業式の様子についてお伝えします。

校長式辞（一部要約）



202名の卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。皆さんとはたった一年のお付き合いでしたが、一生忘れられない光景があります。それはコロナ退散・終息を願った一中祭の閉祭式において、テーマ曲の熱唱に続き、3年生のリードで校歌を自主的に斉唱した姿でした。このときは最高学年としてのパワーと歌のもつ力を実感し、心の中に熱いものがこみ上げてきました。

2020年は、コロナ禍ということもあり、3度の臨時休業、部活動の制限、夏季中体連の県大会以上の大会中止、一中祭の制限・縮小開催、修学旅行、合唱コンクールの中止など本校73年の歴史の中でも未曾有の年でした。この中においても皆さんは、本当は残念で、悔しい思いをしていた人もいたと思いますが、粛々と、この現実を理解して受け入れ、冷静に行動していたことに感謝したいと思います。

コロナがいつ終息するか分からないこの予測困難な時代を、生き抜いていくためには、現実を理解し、冷静に行動することが大切となります。皆さんはすでにその素地をもっていると思います。

今年度、感染症関係の本を数冊読みましたが、それによると人類対ウイルスの戦いは過去にもあり、今のコロナが終息しても、未来にも起こり得るということです。新しいワクチンなどが開発されても、ウイルス側もそれに負けまいとし、進化・変異していきます。しかし、人類も叡智を結集してそれに対抗していくことでしょう。読んだ本の一冊にノーベル賞作家アルベール・カミュ作の「ペスト」があります。物語の主人公、医師、リウーの言葉に「ペストと戦う唯一の方法は誠実さということです。僕の場合は、自分の職務を果たすことだと心得ています」という一節があります。この「誠実さ」こそ人類最大の武器だと思います。今まさに、この瞬間に世界中の医療従事者の方々は誠実に戦っています。感染症対策を誠実に実行に移したり、我慢すべきときは我慢する、そのような誠実さ、自分の職責を全うする誠実さを身に付けて、これからの長い人生を生き抜いてほしいと思います。このような時代を生き抜くためには、壁にぶち当たってもそれを乗り越えるたくましさ、柔軟に物事を考えるしなやかさ、そして、誠実さが大切だと思います。「たくましく、しなやかに、そして、誠実に」という言葉をエールとして送り、次のステージでも、将来、何かの職に就いたときも生き生きと活躍することを願っています。

今日3月11日は、東日本大震災が起きて十年を数えます。今も避難している方々に、お見舞い申し上げ、亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、この困難で不透明な時代を、我々が精一杯生き抜いていくことを誓いたいと思います。今、この会場にいる我等は、一中という絆で結ばれた同

士です。共に明るい未来を築くために、力を結集したいと思います。

結びにあたって、皆さんが一中で身に付けたジェントルマンシップを発揮し、「たくましく、しなやかに、そして、誠実に」生き抜き、未来に向けて大きく羽ばたくことをお祈りしています。明日から、自分だけの「正解」探しの旅に出る皆さんの夢や希望が、古城の桜花のように開花することを願い、式辞とします。

PTA会長祝辞

清野 浩司 様

今日、制服のボタンを外し、リボンを取れば、皆さんは一中生ではなくなります。3年間着れるようにと用意した大きめの制服も、見上げていたご両親も先生も、今は小さく映っているはずです。君達は身も心も立派に成長しました。それが、私達にとっては喜びであり、誇りです。

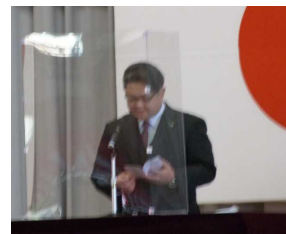
君達は希に見る困難を乗り越えてきた世代です。幼い頃、未曾有の東日本大震災を経験した3月11日、宿命なのか今日その日に新しい世界へ羽ばたきます。

最終学年ではコロナという見えないウイルスと今なお戦っています。君達を守ろうと私達大人は全力を尽くしましたが、叶えてあげられなかった事がたくさんあり、悔しくてなりません。そんな状況下でも弱音を吐くことはありませんでした。卒業アルバムには最高の笑顔が綴られていたのがせめてもの救いです。こんな時代を生きているからこそ耐え抜く強さを手にしたはず。でもその強さを自分が勝ち抜くためではなく、人を助ける優しさに使ってください。常に謙虚で、支え合う強さを持つこと・・・優しくあるための強さを持ち続けること・・・それが「ジェントルマンシップ」の真意だと思っています。

3年間は楽しいことばかりではなかったはずです。時には君達の小さな胸にトゲがささり、どうして？何で？と、誰かに問いかけても答えは見つからず、「しょうがないんだ」と自分に言い聞かせ、作り笑いで過ごした日々もあったでしょう。私達がもがいている君達の遠くの方で「もうちょっと頑張れ、我慢して乗り越えろ」としか言えなかった。思春期真っただ中の本当の想いを上手に聞いてあげられず、時に突き放してしまうこともありました。許してください。

でも、どうか知っておいて下さい。雨が降り出せば、傘は持っていたのか？宿題のワークブックは出したのか？私達が口うるさく言うのは、君達を支え、守りたいから、ただそれだけです。

先生方は迷いながら過ごした学校生活を根気強く導いてくれました。地域の方は、いつも温かく見守ってくれました。後輩のみんなは君達の背中を見て追いつこうと今も走り続けています。そして、今日、その背中を私達が誇らしく見つめています。いつも誰かがあなたのことを思っています。優しさと強さを胸に、新しい道を歩き出す202名の卒業を祝し、3年間私達に希望と成長を見守る喜びを与えてくれたことに感謝し、「ありがとう」の言葉を添えて祝辞と致します。



在校生送辞

須藤 桃花（2年2組）



校庭にはまだ雪が残り、冴えた空気に身を縮めることもあります。教室の窓から差し込む光は日ごとに柔らかさを増し、吹き込む風も春の匂いを運んできます。新しい季節の訪れに胸が躍る今日、この学び舎を巣立って行かれる卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお喜び申し上げます。

今、卒業証書を授与された先輩方の姿を拝見し、これからは先輩方のいない学校生活を送らなければならないという寂しさや名残惜しさに溢れています。

思い返してみると、この一年間は何事も「例年通り」にはいかないものでした。新型コロナウイルスの影響で、昨年度から準備してきた修学旅行の予定も変更を余儀なくされ、中体連県大会も行うこ

とができませんでした。また、直前までクラス一丸となって練習に励んだ合唱コンクールまでなくなってしまったという残念な事態が続き、これまで積み重ねてきた先輩方の努力が報われないような気がして、胸が痛みました。しかし、先輩方は今日までどんなときでも前を向き、明るく全力で中学校生活を送られてきました。規模を縮小して行われた一中祭。先輩方の一中大賞は、どのクラスも一丸となって表現することの喜びに溢れていました。ちぎり絵には三年間の思いがぎゅっと詰まっており、「最高学年になるとこんなに素晴らしいものが創れるのか」と憧れを抱いて鑑賞したことを思い出します。今年度の一中祭は、今まで以上にエネルギーに満ちあふれた思い出深いものでした。それは何よりも先輩方の「仲間を大切にしよう、今を楽しもう」、という思いが強かったからだと思います。そのような思いは廊下に張られた炊事遠足の写真からも伝わってきます。写真に刻まれた先輩方の穏やかな笑顔。その笑顔は「今、仲間と過ごせることがどんなに幸せなことか」を私たちに語っているように感じるのです。

思うように物事が進まなかった一年。でも、先輩方は制限のある中で、今できることに、全力で向き合ってくられました。わずかでも「できること」にみんなで全力で向かわれていく。だから、いつもどんなときでも笑顔が溢れていたのだと思います。日常を仲間とともに積み重ねていくことにこそ価値があるのだと、先輩方は身をもって教えてくださいました。私たち在校生も、先輩方のようにこの一中での一日一日を大切に過ごしたいと思います。どんな状況にあっても先輩方のように前を見て、笑顔を忘れずに……

「仲間を思いやること、笑顔で乗り越えること、今できることに全力で臨むこと」先輩方から引き継いだGENTLEMANSHIPを絶やさず、大好きな一中を私たち在校生がさらに盛り上げていけるよう努めます。先輩方は前を向いて、それぞれの道へ踏み出してください。お世話になった先輩方の輝かしい前途を願ってお別れの言葉といたします。

卒業生答辞

山本 琉碧（3年4組）

窓から差し込む光が、日に日に暖くなり、春の訪れを感じさせる頃になりました。校長先生をはじめ、ご来賓の皆様方、在校生の方からの温かいご祝辞と励ましの言葉を賜りましたことを卒業生一同、心より御礼申し上げます。

時の流れとは本当に早いもので、僕たちがこの第一中学校に入学してから、三年という月日が経ちました。それは、今となってはあっという間に過ぎ去ったように感じられますが、一日一日がとても濃密で、かけがえのない日々でした。部活動で仲間たちとたくさんの汗を流したこと、放課後に生徒会活動の準備に追われ、遅くまで居残って作業をしたこと、他愛もないことで笑い合い、些細なことでケンカし、すぐ仲直りしてまた笑い合った日々のこと、一つ一つ鮮明に覚えています。



三年前の春、僕たちは真新しい制服に身を包み、今日と同じように入学を祝っていただきました。入学当初、環境の変化に戸惑う僕たちに優しく話しかけ、たくさんのことを教え、引っ張っていつてくれた先輩の存在の大きさが、今になってようやく分かったような気がします。二年生になり、僕たちも「先輩」と呼ばれるようになりました。初めは、そう呼ばれることに慣れなかった僕たちは、「先輩」と呼ばれるに相応しい行動を取ろうと試行錯誤したことが思い出されます。

三年生になって、部活動や委員会活動などで、自分たちが中心となって活動する機会が増え、「自分の行動に責任を持つ」ということを心がけるようになりました。そして、自分たちが中心になることで、たくさんの思い出ができました。その中で最も記憶に残っているものは、「一中祭」です。今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、様々な制限を課され、開催が危ぶまれる中、一中生が心を一つにし、懸命に努力した結果、万事滞りなく行うことができました。昨年の生徒会テーマ「To Be Continued ～共に築こう明るい未来～」のもと、大成功をおさめた一中祭は、どの生徒会行事よりも

苦勞しただけあり、今までで一番の達成感を味わうことができました。

僕はこの第一中学校でかけがえのない仲間と共に、たくさんの事を乗り越えてきました。その仲間たちと出会って三年、側にいることが当たり前だと思っていました。一緒に泣いたり、笑ったりするのも今日が最後だと思うと、とても淋しく思います。今日を境に別々の道を歩き出すことになりますが、ここで学んだ「ジェントルマンシップ」を胸に抱き、それぞれの道を力強く進んでいきます。

明治から昭和にかけて活躍した、俳人の高浜虚子の作品に「運命は 笑ひ待ちをり 卒業す」という句があります。僕たちは今まさに困難な時代の中に生きており、卒業後が「笑う」がごとき前途洋々としたものではないかもしれません。しかし、どんなに辛く運命に流されようとも、どんなときも強い意志と希望を持ち、未来に向かって歩んでいきます。

部活動や委員会活動で僕たちをサポートし、最後までついてきてくれた後輩たち。僕たちは今日、この第一中学校を託します。これからは僕たちの代わりに第一中学校を引っ張っていくことになります。この先、悩み事や一人では解決できないことが増えてくるとは思いますが、この学校には、困っている人に対して親身になって話を聞いて、手助けしてくれるジェントルマンな生徒、そして頼りになる先生方たくさんいます。ですから、お互いに支え合って、この第一中学校の伝統を引き継ぎ、より良い学校を目指して頑張ってください。

三年間温かく見守り、ご指導してくださった先生方。僕たちがこんなにも楽しく過ごすことができたのは、先生方の支えがあったからです。また、昨年は新型コロナウイルスの一举一投足に細心の注意を払い、修学旅行を含む様々な行事の調整をしていただき、ご多忙の中、お手数をおかけしたこと、大変感謝しています。先生方が教えてくださったことを何一つ無駄にせず、今後の人生に活かしていきたいと思います。そして、今まで支え続けてくれた家族、僕たちをここまで育て、どんなときも味方でいてくれました。辛いとき何度救われたか分かりません。在校生の皆さん、先生方、そして家族には心から感謝しています。今まで本当にありがとうございました。

最後になりましたが、第一中学校のますますのご発展をお祈り申し上げ答辞とさせていただきます。



入場前に検温
を実施



最後の学級写
真撮影

卒業生の合
唱「正解」



学担の呼名
に元気よく
「はい」最
後のコミュ
ニケーショ
ン



感動的な卒業生
退場

卒業生の見送り、
少し「密」になっ
てしまいました。

